



舛添都知事・汐入と町屋を視察 首都直下型大地震に備え 16日

4月16日舛添都知事が荒川区を訪れました。目的は首都直下大地震に備え、都民の生命と財産を守るため、今後の防災対策に生かそうというもので、荒川区での視察地は汐入と町屋地区が選ばれました。ご存知の通り汐入地区は東京の中で最も安全な地域で「**地区内残留地区**」に指定されています。知事はまず



知事を迎える西川区長と筆者

3時頃に4丁目の都民タワー屋上から汐入地区を視察し、その後水神大橋へ移動し、「汐入公園展望広場時計塔前」で説明等を受けました。

汐入は家具類の転倒と家庭の火事が課題

「地区内残留地区」の意

大災害の時でも住民は、他の広域避難広場へ逃げる必要のない地区。

知事は区役所訪問後、町屋・熊野前方面へ移動しました。この地域は東京都の災害危険度調査で最も危険な地区として指定されている地域で、今後は東京都の支援により道路の拡幅や火災が発生した場合に、迅速な消火活動ができるような体制作りが課題です。現在「**防災不燃化特区**」に指定されています。

防災訓練には参加しましょう



都知事に同行する崎山都議

胡録神社こども神輿 6月1日渡御 前夜祭は芸能大会や出店を企画

前夜祭 5月31日(土)

当日 6月1日9時~13時頃

曳き屋台・中神輿・小神輿・奉納歓迎

お菓子も出ます。芸能大会参加募集

詳しくは各建物の掲示板を参照



【恒例】町会・三中合同運動会開催の御案内

日時 5月18日(日) AM9時行進スタート

会場 荒川三中【雨天は体育館】

昼食 全員にアルファ米+トン汁

景品 町会種目参加者にはもれなく贈呈



「明治大学マンドリン IN 荒川演奏会」汐入地区チケット販売

演奏日 5月24日(土)午後5時30分(開場4時30分)

発売場所 ラボンヌオカモト【ベルポート汐入内】

発売日 発売中。古賀メドレーから最近のヒット曲迄多数

料金 ~~2000円~~ 1700円(当店のみ・枚数残りわずか)

各建物・掲示板に掲載予定

【恒例】鯉のぼりフェア 4月25~5月20

会場 都立白鬚東公園内(水神大橋渡り白鬚橋へ向かう)

450匹の鯉が大空に舞います

「川の手まつり」汐入公園で開催 噴水広場前で太鼓とお茶でおもてなし 汐入町会コーナー設置 11時～13時頃

今年の「川の手まつり」が5年ぶりに汐入公園で開催されます。4月29日に10時から式典が行われ、第1・第2会場に分かれます。今回は汐入町会が噴水広場前で「おもてなしコーナー」を設置します。先生は羽中田汐入東



小学校前校長と児童がお茶を点てます。11時から先着80人で打ち切りとなりますのでお早目に参加して下さい。又12時前後に「汐入胡録和太鼓」が演奏されます。いずれにしても町会の皆さんが一人でも多く顔を出してくれることが何よりのおもてなしになります。予算は1,000万円

区内共通お買い物券 6月1日発売 一人3万円に変更・汐入商店街は200セット

前回掲載したように区内商店街の景気落ち込み対策に臨時で「区内共通お買い物券」を販売します。発売方法は前回と同じですが一人5万円を3万円に変更となりました。残念ながら今の所、汐入の三徳始めスーパーではほとんど使えませんが、ファミリーマート始めコンビニでは使える店が多くなっ

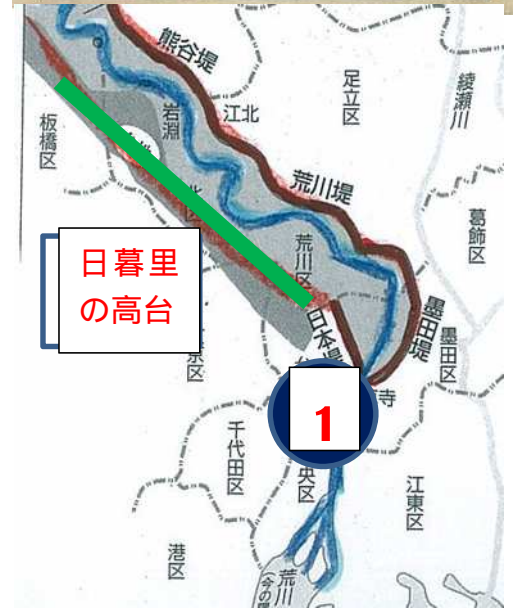


ています。ララテラスは区内商店街には未加入のため使えません。今回の発売枚数は全部で5,000冊。これを各商店街に分けます。区としては商店街振興策のため区内共通お買い物券に500万円を補助しています。

【 写真のステッカーのある店で買えます 】

江戸の水害を守った「日本堤」と「墨田堤」

右図上は江戸の浮世絵師、広重の描いた、江戸名所百景の「よし原日本堤」です。掘った山谷掘りの土で堤防を築き、その上を両側に店が並んでいるところに多くの人々が歩いている姿と上部の白い色が吉原遊郭の様子です。規模は現在の待乳山聖天から三ノ輪迄長さ約1,200m、高さ3メートル、幅8メートル。この堤を全国諸藩に命じわずか60日の速さで、1620年に完成させました。【図の】「日本堤」の名は一つは日本中から集めた各藩によって作られた為、二つ目は日光道中の南千住付近は低湿地帯の為、堤防が築かれていて、ここに新たな堤防を合わせたので「二本堤」の説があります。さて、今から470年ほど前の1590年。秀吉の命令で家康は江戸に入りますが、当時の江戸はほとんどが湿地帯の荒涼たる場所で、現在の東京駅付近から先、銀座・晴海方面はほとんどが海でした。同時に隅田川の氾濫は江戸の町を何度も水害で苦しめたようにまさに江戸の繁栄は隅田川の治水に他なりません。江戸の中で高台と言えば浅草付近と日暮里・田端・飛鳥山方面だけである事に着目した幕府は双方の高台を利用して「日本堤」という壁を築き、大雨時には墨田区側へ溢れさせ、江戸の町を水害から守る事に成功しました。「日本堤」は実に300年間、昭和2年まで使用されました。



日本堤の崩壊を守った「吉原遊郭」

さて完成した堤防を崩壊させないためには常に土を固めていなくてはなりません。堤防を維持管理することは築く以上に重要となり、いかに堤防を管理するかが課題となります。そこで幕府は京橋にあった「吉原」を移転させる事により、浮世絵にみられるように、辺境の吉原に通う大勢の人に土を踏ませることで、「日本堤」が強固なものになり江戸市中から洪水を防ぎました。次回は「墨田堤」「向島料亭街」です